

令和6年12月19日

伊奈町長 大 島 清 様

伊奈町行財政改革推進会議
会 長 都 筑 信

少子社会における町の対応について（答申）

令和5年7月26日付け企発第51号で諮問のあったことにつきまして、次のとおり答申いたします。

答 申

伊奈町は、美しい田園風景が広がる自然豊かな中、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）の運行により、東日本の玄関口である大宮駅にも至近で交通利便性もよく、住環境に大変恵まれた町です。

また、県立がんセンターを始めとした各種医療機関も整備され、さらには、大学や専門学校、公私立の高等学校・中学校の各種教育施設が所在する文教地区としての側面も併せ持つなど、子育て世代はもちろん、あらゆる世代にとって大変魅力的な町です。

こうした中、町では、「日本一住んでみたいまち」を目指してまちづくりの取組を進めたことにより、近年では一貫して人口の増加傾向が続き、令和6年12月1日時点では、45,051人の人々が暮らす、活気あふれる町として発展を続けてきました。

しかしながら、少子高齢化に伴う人口減少が全国的な課題となる中、わが町においても、近い将来、人口減少に転じることも予測されており、少子社会における対応の検討が、町の急務となっております。

本会議では、町の取りうるべき対応について議論を重ね、「町民が安心して子育てできる環境を整備すること」「町外からの移住者を増やすこと」の2つのアプローチにより、取組を検討していくことが大切と考えました。

そして、このアプローチに関するテーマとして、「出会いから結婚、出産、子

育て」「教育と住環境」「町の魅力発信」の3つの項目に関して議論いたしました。

その結果、町が取りうるべき施策の方向性について、次のような結論に至りました。まず、町の恵まれた資源を十二分に活用することで、ライフステージに応じたさらなる有効施策を展開し、子どもたちを育む住環境を充実させる必要があります。そして、施策や住環境を整備するだけでなく、それを確かな理念を持って、町内外に広く発信して、町の魅力をプロモーションしていかなければなりません。

本答申や次に述べる意見を活かし、行政のみならず、住民や地域コミュニティ、町内の関係団体と協働し、国・県などの協力を得ながら具体的な施策を展開することで、伊奈町が、「日本一住んでみたいまち」となることを期待します。

意 見

少子社会における町の施策を進めるにあたり、次の具体的事項について取り組まれない。

なお、各取組の進捗管理、実効性の担保及び有機的連携の観点から、各取組を統括する体制の整備を検討されたい。

1. 出会いから結婚、出産、子育て

- ①様々なイベントの企画・運営や、安全性を担保した上でのSNSの活用など、若年世代の参加・交流の機会を設けること。
- ②妊娠期から子育て期における医療機関・相談体制のさらなる充実など、安心して出産・子育てできる環境を整えること。
- ③保育所や放課後児童クラブ、夏休み等の長期休業期間中の子ども預かり施設などの充実に努め、働く世代が安心して子育てできる環境を整えること。
- ④役場新庁舎への図書館の複合化に当たっては、読書を通じた親子間や子育て世代間の交流のための機能を持たせるよう、配慮すること。

2. 教育と住環境

- ①英語教育を始めとした基礎的学力のさらなる充実の取組に加えて、日常生活における異文化交流を通じて、子どもたちの社会性・主体性を育む施策を実施すること。また、スポーツや文化などの優れた才能を伸長する教育を推進すること。
- ②森林や水辺等の自然に親しむ経験や、町の特産である梨やブドウ農家での農業体験、バラの栽培体験など、恵まれた自然環境を活用し、伊奈町ならではの

はの魅力を発見し、実感する経験学習の取組を実施すること。また、町内の大学や専門学校、高等学校等における、小・中学生による体験学習など、教育施設が所在する環境を活用した、特色ある教育を展開すること。

③ニューシャトルや町内循環バス等の地域公共交通について、交通アクセス向上のための施策を実施し、新技術やデジタル技術の積極的な活用も併せて、利用者にとって望まれる交通体系を構築すること。また、ニューシャトルの各駅を中心としたにぎわい拠点を整備するなど、利用者や周辺住民の利便性向上の取組を展開すること。

④空き家となっている町内の戸建住宅について、若年世代の受け入れのため、住宅を始め、地域交流拠点、コワーキングスペース等として活用し、空き家問題の解消も併せた取組を検討すること。

3. 町の魅力発信

町の強みの把握・魅力の発掘を行い、創意工夫により多くの人々の関心を高められるよう、町の魅力の可視化を含め、よりよいPR効果を生む発信を強化すること。

発信に当たっては、SNSを効果的に活用するなど、子育て世代を始めとしたあらゆる世代に届くアプローチにより実施すること。

なお、町の魅力「豊かな自然と充実した住環境」、「郷土の偉人」及び「文教地区」については、町の魅力の核として位置付け、下記のとおり注力して取り組むこと。

- (1) 都心や県を中心に近く利便性の高い立地にありながら、美しい田園風景が広がる豊かな自然と充実した住環境を有することについては、他の自治体に優位する町の大きな魅力であることから、さらなる発信に努めること。
- (2) 地域社会全体による協働の風土づくりの観点から、郷土愛の醸成を図るために、郷土の偉人に係る施策を充実させること。江戸時代に小室に陣屋を構え、代官頭として関東繁栄の礎を築いた伊奈備前守忠次や、同じく小室で幼少期を過ごした後、江戸幕府の要職を務めるなど、「知恵伊豆」と称される松平伊豆守信綱については、町とのゆかりやその功績を顕彰し、町の魅力として発信すること。
- (3) 町で展開される特色のある教育により、文化芸術やスポーツなどの分野において優れた人材を輩出する土壌を有する地域であることを積極的にPRするなど、文教地区としてのブランディング戦略を推進すること。